

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	ギホク株式会社		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地の2		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190800017&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190800017&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様がごくごく普通に生活ができるようにお手伝いさせていただいています。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲を山に囲まれ、静かな田園風景が広がっている地域に事業所はある。9名の利用者には広すぎるくらいの敷地に、燦爛と陽が当たり、フェンスには布団やシーツが干され、物干しには沢山の洗濯物が風に吹かれ、勝手口には近隣からもらった野菜が綺麗に並べられている。事業所の理念である「ごく普通の生活を利用者と共に過ごし、自分も入居したいホーム」が肌で感じ取れるような、居心地の良さをかもし出している。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちが、入居したいと思えるようなホームにしよう」という理念を職員及び管理者が共有しています。	「私達自身が、入居したいと思えるようなホームにしよう」を理念としている。管理者・職員は、住み慣れた地域で、ごく普通の生活を、利用者と共に過ごす事を、申し送りなどで確認・共有し、理念が、日々の生活につながるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方々からは、散歩のときに声をかけて頂いたりしています。	代表者も、従来から地元住民であり、地域の一員として良い関係を築いている。隣人からは、野菜の差し入れや「庭の菜園を自由に使ってもいいよ」といわれている。毎日の散歩でも気軽に声を掛け合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所までこられて相談を受けることはありませんが職員等が地元なので個人的に相談を受けたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、関係機関、自治会長、民生委員、家族代表の方々に出席していただき、いろいろな意見をいただいています。	2ヶ月に1回、連合会長、民生委員、行政、家族代表等の参加で開催している。事業所の現状報告に加え、出席者からは、小学校や幼稚園を含めた地域交流の提案等がある。意見・提案は、関係先と調整し、サービス向上に努めている。	利用者は子どもとの交流の機会が少ないため、運営推進会議で提案された小学生や幼稚園児との交流を、ぜひ、実現されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険者連絡協議会等に参加しています。	市主催の行事や研修には、職員は積極的に参加している。事業所からの報告や相談など、日々連携に努力している。	事業所は努力しているものの、市の行事や研修などの年間計画や県で実施される各種研修予定など、市福祉課から得られる情報は少ないため、事業所からのさなる積極的な働きかけに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者が各種講習会に参加し、職員会議において伝達しています。	身体拘束について、事業所独自のマニュアルを作成し、職員は外部研修にも参加し、全体学習で共有し、正しく理解しており、身体拘束は行われていない。日中、玄関は開放され、庭を自由に散歩できる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、職員に研修で得た事を伝えています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、職員に研修で得た事を伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の来所時に説明し、契約時に再確認をして、います。また、退所時にも相談を受けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の雰囲気より管理者や職員がそれとなく話し合い、出来る限り不満がストレスにならないよう心掛けています。	月に1回は、家族と話し合う時間をもち、意見や要望を聞き取っている。急な家族の訪問にも、食事の時間帯であれば、利用者と一緒に食事をしてもらい、献立や味付けなどの意見を聞いて改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議を開いて職員の意見や提案を聞くようにしています。	毎月の職員会議は、代表者が出席し、話しやすい環境とするため、事業所外で、会食しながら実施されている。職員からは、「働きやすい環境や使いやすい工夫」など、活発な意見が出され運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の離職は、開設3年で3名であり、開設時より職員の全体会議を食事会をかねて毎月行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護訪問員2級の養成講座を受講、受講者には、受講費の補助をおこなっています。県の講習会等に順番に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの責任者等が集まりお互いに話し合いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者及びケアマネージャーが、面接時及び入所直後にいろいろと本人より話を伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が認知症の親を在宅介護した経験より、家族の話を親身に伺うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者及びケアマネージャーが、面接時に本人の状態を確認し、支援に対しての話し合いを行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の過去の聞き取り表を、職員に開示し性格など職員が共有するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所される都度、本人の状況説明と介護計画を確認し家族の思いを聞いて介護の方向を決めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の地区の敬老会に家族とともに参加されたりなじみの方が遊びにこられたりします。	地域の敬老会等の老人会行事への参加は、基本的には、家族に同行を依頼している。近隣の利用者が多く、「近くに来たから」と友人・知人が気軽に訪れている。事業所は、ゆっくりした時間を過ごしてもらえよう、場の提供や接待に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士の目配りなどで、利用者が孤独感を味わうことのない様に声かけをおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とあらばどんな事にも対応していこうと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や、おやつ等本人のペースに合わせておこなっています。	日々の色々な場面で意向や思いを聞いている。毎朝の新聞広告を、利用者との話しの糸口としている。「何が食べたいか、何が好きか、もうこんな時期か」など話題が多い。洋服などの買い物も広告を見て、好みや反応から思いの把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者・ケアマネの聞き取り表を職員に公開し全員が経過などを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当時は、様子を見て、本人の力を見極め、出来る事を少しずつ増やしていくようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議のときにケアプランと現状を考え、話し合い、本人にとってより良いプランを提供できるようにしています。	職員全員で全利用者を把握することになっている。介護記録や個別記録を基に職員会議で検討し、介護支援専門員、必要であれば、医師や看護師の意見を踏まえ、介護の目標や課題が利用者・家族の意向に沿った介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌を作成し、日々の様子がわかるようにしてあり、日誌をもとにケアを考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の相談等に柔軟に対応しています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方々には、運営推進会議に参加出席していただき、共に問題点等を共有していただいています、また、理容等におきましては、地元の方に来所していただき実施しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月2回の往診、かかりつけの病院がある場合には、管理者が付添い受診しています。	入居時に、利用者・家族の希望で、かかりつけ医を協力医に変えている。専門医やかかりつけ医への受診には、事業所の管理者が付き添って受診している。緊急時も、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいます。バイタルチェックは、毎日行い利用者の健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは、管理者が、入院先に顔を出し出来るだけ早期に退院出来るよう担当医師と相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が普段の生活で必要となれば病院等への移動となるが、出来るところまでは、させて頂くようにしています。終末期には、家族の同意をいただき面倒を見させていただいています。	重度化や終末期に向けた方針は、入居時に家族や本人に十分説明し、了解を得ている。事業所として過去に看取りも経験しているが、経口摂取困難・医療行為が必要な場合は、利用者・家族・医療関係者で話し合いを持ち、適切な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当所の看護師と連絡をとり、早期に対応するように勤めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地元自治会長・民生委員の方々に災害時には、協力していただけるよう話しています。年に2回避難訓練を実施しています。	年2回の避難訓練を実施し、全職員に避難場所なども徹底されている。訓練の実施については、運営推進会議などで地域への協力要請も行われている。来年は、夜間を想定した訓練の計画が立案されている。	夜間を想定した避難訓練の実現を期待するとともに、実施にあたっては、運営推進会議を活用して地域も巻き込み、役割分担等も行うなど、迅速かつ効果的な訓練になるよう期待したい。

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導やオムツ交換時もあからさまに言わずに行なっています。	利用者・職員がともに地元出身である関係から、馴れ合いの言葉や対応になりやすい。管理者は日頃から、会議のたびに話題に上げ、注意を促している。特に、トイレ誘導など、プライバシーを尊重した対応が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制することは、何もなく家族との外出・外泊等も自由にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を中心に各自のペースを把握し生活をお手伝いする事を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は、ホームの方へ出張していただいています。パーマをかけている方は、なじみの美容院へお連れしています。毛染め等は、事業所にておこなっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の団欒の中で食べたい物等を聞いて献立をたてたりして、臨機応変に対応しています。新聞の折込広告等を一緒に見て、好きな物や食べたい物を尋ねたり季節の話をしています。	二つの大きな食卓テーブルを利用者と職員が囲み、ゆっくりと落ち着いた食事風景である。野菜の下処理など利用者の出来る事は、無理強いせず、食後の後片付けも職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三餐の食事は、キチンととっていただき室内での熱中症を防ぐ為にスポーツドリンク等を飲んでいただきトイレの回数等でも気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは、自分で出来る方は、自分で、介助の必要な方は、職員と一緒に必ず行なっています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ等により、オムツの使用を少しずつ減らせるようにしています。	職員は、利用者全員の排泄パターンを把握している。手間を惜しまない支援を心掛けており、日中はトイレ誘導を基本とし、夜間もオムツの使用を少しでも少なくするように努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等を実施し、日々の食事バランスのとれた食事をだし、排泄を促せるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴を楽しみにしています。ほとんどの方が湯につかりながら「いい湯やな～」と喜んでいきます。	月・水・金と、週3回の入浴が行われている。広く清潔な浴室で、ほぼ全員が好んで入浴しており、体格のいい人でも安心して浴槽につかれるようリフト浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の生活習慣に応じて一日を好きなように過ごしていただき、昼寝の時などは、他の邪魔が入らないようにしています。また、寝具等は、天気の良い日においては、毎日日干しを実行し清潔な寝具にて就寝していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしています。変化が見られたら、かかりつけ医に報告し、その後のことを、相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事、好きな事を家族より聞いたり日常生活の中から見出したりして出来ることは、手伝っていただいています。クロスワードパズルや間違い探し等楽しんでいきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出し、気候に応じた散歩を実施しています。月に2回は、喫茶店に出掛けています。	事業所周囲の、田園を廻るコースを、日常的に散歩している。事業所の敷地は広く、庭の中だけでも十分な運動になる。月に2回は、喫茶店に出かけ、行き帰りのドライブは、季節に応じて公園や寺院などにも立ち寄り、利用者の気分転換に繋がっている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状態によって、お金を所持していただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に使えるようにしてあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMをながしています。季節ごとに敷物を替えたり、テーブルクロスを替えたりしています。	建物の中央には広い廊下があり、見通しが良い。廊下の中央には、人目を気にしない談話スペースや休憩できるベンチも配置されている。居間には畳コーナーもあり、利用者が座って、洗濯物を丁寧にたたんでいる。共用空間は日当たり・風通しも良く、居心地の良さを感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、二箇所あります。利用者の気の合うもの同士が話をしたり、テレビ番組で見たものをゆっくりみられるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側で準備する物は、最小限とし出来るだけ使い慣れた物を持ってきていただき、使用してもらうようにしています。	居室は広く、それぞれ壁紙の色が異なり、布団かベッドかの選択もでき、個性豊かな居室になっている。出入り口は、利用者でも楽に開閉でき、静かに動く吊り引き戸が採用され、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間は玄関に施錠しますが日中は開けてありますし、居室の扉にもかぎは、ありません。自由に過ごしていただけますが常に職員が様子をつかっています。建物は、平屋建てですのでバリアフリーとなっています。		